

今年3月に完成した御船小学校を見学する一日課長



町民視点で役場を内部改革

一日課長体験

11月24日、役場の管理職を体験する「一日課長の日」が行われ、参加した町民13人が業務にあたりました。この企画は、行政を身近に感じてもらうことや町民視点からの内部改革を目的として、今年で5回目です。辞令の交付後、13部署へと配属されて、業務説明、決裁書類の審査、予算編成説明会、学校施設見学などを体験しました。町民保険課長を務めた枇榔ゆかりさん(豊秋)は、「思った以上に業務が多かった。行政に目を向け携わっていくことで、お互いにまちをよりよくしていけたらいいと思う」と期待を寄せていました。

長寿の神さまの部屋衣替え

「歳ノ神」の社を交換作業

田代地区木戸屋で11月14日、「歳ノ神」と呼ばれる社(縦・高さ1.7m、横2.0m)の外壁や屋根の取り替え作業が行われました。この習わしは、五穀豊穡や無病息災に感謝するもので、200年以上受け継がれる伝統行事です。毎年、米の収穫後、その年の稲わらとカヤを地域住民で持ち寄り、12石の干支がまつらた社を手作業で交換しています。作業後は、酒と米を備えて、一人一人手を合わせました。松原茂区長は、「今年も無事に年を迎えて、安心している。社は集落にとって長寿の神さま」と安堵の表情を浮かべていました。



10人で約2時間かけて交換作業を終えた「歳ノ神」の社

9年連続で九州大会に出場

アイデアロボコン県中学生大会

第15回創造アイデアロボットコンテスト熊本県中学生大会が11月5日、熊本高等専門学校(合志市)で開催され、御船中学校(加藤敬之校長、471人)が2部門での優勝を含む上位独占で、9年連続9回目の九州大会の切符を手に入れました。大会には、県内中学校から3部門に83チームが出場。競技は、▽ごみを回収する掃除ロボットでタイムを競う授業内部門▽2種類のボールを回収して所定の場所へと運び得点を競う応用部門▽操縦型ロボットで自走型ロボットとアイテムを島へと運び得点を競う九州オリジナル部門一で対戦しました。その結果、授業内部門で「L i n g」と、応用部門で「新生御船2 n d」がトーナメント戦を制して優勝。残る4チームも準優勝やアイデア賞に輝き、御船中6チームが九州大会出場を決めました。3年で部長の真田瑞生くん(小坂)は、「まさか全チームが九州大会へ出場できると思っていなかった。今度も6チームそろって、全国大会へ行きたい」と意気込みを語っていました。九州大会は12月10日と11日の両日、鹿児島県鹿児島市の樟南高等学校で開催されます。県大会の結果は次のとおりです(順不同敬称略)。

【授業内部門】

- ▼L i n g (優勝)
井芹伶音、塚本智也、増田清徳

県大会上位を独占して九州大会に出場する御船中技術・ものづくり部



- ▼破邪頭正(準優勝)
山之内龍真、福永将太郎
- ▼フルメタルウイング(アイデア賞)
林利紀、倉田晃太郎、井芹友哉

【応用部門】

- ▼新生御船2 n d (優勝)
真田瑞生、浅井泉穂、矢壁孝志
- ▼トップスピード(アイデア賞)
杉原一成、瀧上斗誠、増田結子、増田拓海
- 【九州オリジナルルール】
- ▼ロボ絆2 n d (準優勝)
光永光太、樋口勝識、藤田知里

熊本名物に児童たちが挑戦

七滝中央小で食育体験



食生活改善推進員から指導を受ける児童(七滝中央小提供)

七滝中央小学校(村上孝利校長、72人)で11月25日、熊本名物「いきなり団子」作りに児童が挑戦しました。これは、地産地消や健全な食生活の推進を目的とした食育体験事業として、学年別を実施しているものです。材料には、児童たちが運動場脇の菜園で栽培したサツマイモを使用しました。調理は2、3年生児童23人を対象に、食生活改善推進連絡協議会推進員(山下明美会長)が応援にかけつけて、皮むきや包丁の使い方、団子の衣作りを分かりやすく指導しました。3年生の永石恋乃さんは、「お団子作りは初めて。小麦粉をのぼすときに衣が破れて難しかった。出来たてのお団子は、温かくて、おイモが柔らかくて、おいしかった。お家でも、お団子をアレンジして作ってみたい」と家庭での手料理に期待を膨らませていました。

のんびりと清掃続けて3年

ボランティア精神で清掃作業



国道445号歩道の落ち葉をホウキで集める田中さん

団地や国道の清掃作業を自主的に取り組み、付近の住民や通行人から感謝の声が届いている人がいます。麦わら帽子とホウキ姿がトレードマークの田中誠治さん(辺田見・81歳)です。中原団地と国道445号のはわき掃除やごみ拾いを続けて3年目になります。「仕事は年齢的にも無理。人の役に立てればと思ってはじめて」と動機を打ちあけます。雨風が強い日以外は毎朝約3時間の作業に汗を流します。「給料もらってやっている訳じゃないから気楽でいい。時間も関係なく、のんびりやっている」とボランティア精神を話します。田中さんが清掃を始めてから、道路や歩道の不法投棄は減ったそうです。日頃の管理が、ごみ捨て防止の環境へと変えています。「動ける間はやりますよ。5年でも。10年でも」と、今日も仕事場へと出かけます。